

説明会での質疑応答

Q1. 社会人経験者、あるいは社会人が進学することをどう考えるか？

A. 本学の大学院においても社会人経験者は多く、社会人経験自体は歓迎。しかし、本大学院のプログラムとして、仕事と両立した状況に配慮したプログラム（土日・夜間の講義開講など）にはなっていない。原則として両立は厳しい。

Q2. 推薦状は研究科の専任教員を含むのか？

A. 含まない

Q3. 推薦状の言語は？

A. 日本語または英語。その他の言語に関しては日本語訳をつけること。

Q4. 英語試験に関して、次年度以降は TOEFL 等の外部試験へ移行とあるが、目安となるスコアはあるのか？

A. 志望する分野や研究内容によって、求められる英語力の質や能力に差があるため、特に基準点や目安のスコアを定めていない。

Q5. キュレーション・コースの審査において、学芸員資格の有無は考慮されるか？

A. 特に関係はない。研究科のプログラム自体にも学芸員資格の取得は組み込まれていない。

Q6. 書類審査において、例えば美術史など、「アートプロデュース」に即した内容と言い切れない場合は、新たな論考を提出する方が良いのか？

A. 「自身のやりたいこと」や「自分のやってきたこと」をアピールすることを目的にした審査項目であり、必ずしも狭義の意味での「アートプロデュース」に即した内容でなくとも構わない。入学後の専攻分野に関する論考を提出する。

Q7. 「出願の際に志望分野（アートマネジメント、キュレーション、リサーチ）を明記する必要」とはどういうことか？

A. 願書内に志望分野（キュレーション、アートマネジメント、リサーチ）を明記する欄を設けている。教員を指名する欄はない。

Q8. 入学予定者は 10 名とあるが、外国人入学者も含む人数なのか？

A.外国人を含め、原則として入学定員は 10 名。合格者は、教育の機会均等及び志願状況を踏まえつつ、教育研究水準の維持向上や教育研究の支障のない範囲において決定される。

Q8. 提出書類の「志望理由書・研究計画書」の文字数は？

A.文字数の上限を設定し、募集要項かw e bサイトでお知らせする。

Q10. 応用音楽学の音楽療法は、アートプロデュース専攻では取り扱わないのか。

A.カリキュラムとして、音楽療法は取り扱わない。ただし、研究対象としては取り扱うことは出来る可能性はある。